（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズアイランドワイキキ			
○保護者評価実施期間	令和6年　9月　25日	～	令和6年　11月　1日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	26名	（回答者数）	22名
○従業者評価実施期間	令和6年　9月　25日	～	令和6年　11月　1日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	13名	（回答者数）	13名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年　11月　22日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団プログラムに関しては、新報酬改定による五領域を満たす内容になっていること。また個別課題に関しては一律して全員に同一の物提示するのではなく、国語・算数・作業課題等、それぞれのご利用者に合わせた内容を提示できている。	特に個別課題の内容に関しては、支援員が横に付いて実施することで、内容がご利用者に対して適切か不適切かを判断しやすい状況を環境面として作っていることや、個別課題作成担当が把握しやすいように、フィードバックが可能な用紙をプリント等と同時にクリアファイルに入れて事前準備をすることで、翌日以降に実施状況を確認できるようにしている。	その場その瞬間での、実施状況も個別課題作成担当が把握しやすいように、フロア内での声掛け・定期的に実施されるカンファレンスでの個別課題の実施状況の伝達を詳細に行うようにしている。
2	遊具の後片付けや、集団プログラムの挨拶、おやつの準備等を、ご利用者に率先して行えるご利用者が増えてきたこと。	ご利用者が率先して行えるように、支援員が全てをやってしまうのではなく、一緒にやってみたり声かけだけに留めてご利用者の行動を見守るのみなど、ご本人自身で考えて行動できるような支援を行っている。	ご利用者の方々が行える、「お手伝いの内容」を充実させるように、受け入れ前の時間やカンファレンス中に内容の項目決めが定期的に実施できている。
3	ご利用者自身の切り替え・感情のコントロール等が、ご本人たち自身でできるようになってきたこと。	「～しないでね。」などの否定的な言葉は使用せずに、「～する人は…しようね。」のような、共感→肯定の指示出し等を徹底することと、会話ではなく動作で支援員に要求・感情等を伝えるご利用者の方には貼り付け・指差し確認等を行えるような支援ツール（絵カード等）の作成を行っている。	感情の切り替え・正しい行動ができた時には、そこに対して全てを賞賛できるように、日頃からご利用者の様子を役職・職種問わず、ご利用者がご利用中の時間帯は全員でフロア内の見守りを実施すること。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学年が上がるにしたがって、フロア内・支援内容等がご利用者ご本人達に合わずに中学生から高校生に進級するタイミングでの退所が多いこと。	ご本人達にとって、フロアが狭く感じることや、児童発達支援のお子様から高校生まで全てのお子様を同時にお預かりをしているため、特に集団プログラムに関してはどのお子様に合わせた内容で実施するのか、レベル設定が難しいこと。	特に中学生・高校生の思春期のお子様に関しては、ホルモンバランスの乱れ等もあるためか、「体を動かすこと」を要求するご利用者の方が多いため、他のお子様がプログラム中に公園に行き体を動かす等の工夫を凝らしている。
2	曜日によってご利用者の人数にバラつきがあり、定員充足にならない曜日があること。	各曜日での出勤可能支援員にバラつきがあるため、見守りの人数の関係上、安易にご利用者の方々の受け入れを増やせないこと。	キャンセル待ちの方に積極的に連絡を入れて、ご利用していただくことで、事業所側だけでなく各ご家庭の方からも空き状況の確認を事業所に入れていただくことで、スポットでのご利用もしやすいような環境づくりを心がけており、今後も継続して実施することが必要である。
3	学校・他事業所との交流がほぼ無く、閉鎖的な状況で保護者の方の面談での情報共有しかできないこと。	当事業所だけでなく、他事業所や学校のスタッフや先生方も多くの業務を抱えていらっしゃり、ご利用者に関わる全ての大人を一つの場に集めてサービス担当者会議を頻繁に実施することが難しいこと。	管理者・児童発達支援管理責任者だけでなく定期的に実施されるサービス担当者会議に支援員を積極的に参加させることで、交流が図れるように、また交流しやすいような環境づくりを行う必要がある。